

私の趣味は何かと聞かれれば、ゴルフをはじめ好きなことは多いが、囲碁が一番だと答えている。

ホテルオークラの囲碁サロンのメンバーにしていたれているが、大学の常勤理事、さらに理事長となり、とても囲碁を楽しむ時間もなく約四年以上ほとんど打っていない。碁敵と会っても実践をする時間もなく、気分にもなれないのである。

ゆつくりと、じつくりと碁を楽しみたいと心から思っている。

プロ棋士の武宮九段から三子でいいですと言われ、武宮ファンでもある自分には月に一、二回は先生にご指南いただこうと決めていた矢先、大学の常勤になり断念したままになっている。

頭が良いわけでもない自分が、囲碁

囲碁

日高 憲三

● 明治大学理事長

が一番の趣味と言えるようになったのは理由がある。

私には三人の兄がいて、長兄とは十二歳、次兄とも十七歳の差があり、一人だけ大変遅れて生まれた末っ子である。父も囲碁好きで子どもに初歩は教えたのだが、子どもたちは次々と強くなり、追い越され、子どもたちの対戦をのぞき見る程度で家ではやらなくなっていた。

この二人の兄が土曜の午後三時ごろから日曜日の夕方まで一睡もせず打ち続けるのである。私は小学生三、四年くらいだったと思うが、その対戦する兄二人の会話も楽しく、ずっと朝まで見続け、ちょっとだけ自分の部屋に

戻りうたた寝をして、またすぐ兄たちの対戦を見続けたのであった。囲碁そのもののルール等は完全には理解していないのに見続けるものだから、兄たちは気を使って、「やってみるか?」と言ってくれ、うれしく、大きなハンディをもらって打たせてもらったものである。

囲碁の上達に最も大切なことは、上手な人の碁を見ることが、上手な人と対戦することである。下のレベル同士で対戦しても上達はなかなかできないのである。

私は、強い兄たちの碁を見続けたことで兄たち（四、五段くらい）と同じくらいになるのにそんなに時間もかけ

ず、努力もしないでなれたと思う。今も健在の次兄（九十一歳で毎日碁を打っている）を、随分と早く追い越した状況になっている。

碁には多くの格言があり、日常使われている言葉が多い。確かに味わい深い言葉が多く、例を挙げるとキリがないが、好きな格言は、

- ①むさばれば勝ちを得ず
- ②彼を攻めるに我を顧みよ
- ③岡目八目
- ④相手の急所は味方の急所
- ⑤取ろう取ろうは取られのもと
- ⑥兄弟喧嘩は身の破滅
- ⑦大場より急場
- ⑧大石死せず

（参考資料『碁スーパーストックス 力をつける格言運兵法』神田英著・日本棋院）

これらの言葉は勝負の要諦を述べているのだが、強欲に走り独り占めしようとする、結果として勝ちにつながらないという金言に近いものと感じている。自分はとうてい及ばない勝手な

人間だが、碁の勝負においては随所に思い効かせることにしている。

最初に述べたように、何でもそうだが、自分より努力し、勉強し、実力のある人に交誼をいただいて人生を送ることは、自分の人生が豊かで楽しいものになるのだが、それはそんなに簡単ではない。碁で言えば、まず自分自身があるレベルに達しないとイケないし、自分のプライドをある程度捨てながら、向上心、負けん気と知恵がなければならぬのが人生でもあるのではないだろうか。

それにもう一つ、自分が素人の中で、まあまあ強くなれたのは、自分が兄たちの勝負を長時間じっと見続けたことに、自分自身で、あれは何だったのだろうと不思議な気がする。強い見本がある、興味が自然にわいてくるという良い作用が働いたのだと思う。

高等教育機関に携わり、付属の中学・高校が三つあるので、接する機会や状況を聞くことは多い。付属中・高



には優秀な子が入ってくる。その子たちは、入学してますますやる気を起こすと、安心してあまり勉強に興味を示さない者が出てくる。私はその話を聞いたときに自分が囲碁に強い興味をもち、短期間で上達できたことを思うのである。勉強に興味のもてる環境をつくってやることは大事だし、進歩、向上、上達することに喜びがもてれば、学ぶことがあまり苦痛ではないと思う。やる気は人生のテーマであり、教育に携わる者のテーマでもある。